

放課後児童クラブの活動方針

KMテクノソリューションズ 代表 南側晃一

放課後児童クラブでの活動は、こどもたちの放課後での遊びの時間帯であり、こどもたちが集団での遊びを通して、自主性・協調性・社会性を学ぶ「こどもの世界」です。私たち指導員は、こどもたちの自主的な活動を見守り、支えていくことが大切です。そのことを前提とした放課後児童クラブの保育方針は、以下のとおりです。

こどもたちの意見を尊重し、安心安全に過ごせる場を提供するとともに、異年齢集団としてのメリットを生かした仲間づくりを目指す。

- ① **基本的な生活ルール・生活リズムを身につけ、自ら主体的に行動できる自主性を育む**
- ② **言葉を大切にし、人を大切に作る心を育む**
- ③ **集団生活における協調性・社会性を養う**

ここに掲げた方針は、放課後児童クラブの児童保育に対する基本的な考えを示したものです。この方針に示すキーワードについて説明します。まず初めに「**こどもたちの意見を尊重し**」とは、児童保育は「こどもたちの放課後の遊びの時間」をお世話することが基本であり、まさに「こどもたちの世界」ですので、指導員がこどもに指示命令するのではなく、こどもたちの自由な考えを受け入れ、こどもたちの行動を見守り・支えることが重要です。「**安心**」とは、こどもたちが安心して放課後児童クラブに来ることができるといことが大切ですので「いやなこと言われる」「いつも怒られる」などといったことのないように、こどもたちが不安を感じない環境を作り出し、「行きたい」と思えるような、穏やかで和やかで楽しい生活ができるように支援することを意味します。「**安全**」とは、こどもたちの出欠確認を徹底して「まちがいない、自分のこどもは放課後児童クラブにいる」ということを保証することであり、特に出席予定のこどもが来ない場合は、保護者との連絡確認を行い、こどもの安全を保護者と確認し合うことが重要となります。また活動中の児童の安全については、単に危険を取り除くのではなく、こどもが自ら危険を回避できる能力を身につけるよう支援することが大切です。「**異年齢集団のメリット**」とは、1年生から6年生までの児童が放課後を一緒に過ごすことで、低学年にとってはお兄ちゃん・お姉ちゃんに憧れ「私も出来るようになりたい」という思いで自主的・積極的な行動が生まれます。また、高学年にとっては低学年をお世話することでリーダーシップを発揮するなど、活動の中で責任感が芽生えます。

この基本方針のもとに3つの目標を掲げています。一つ目の目標である「**基本的な生活ルール**」とは、こどもたちが学校から帰ってくると、靴を靴箱に入れる、荷物をロッカーに入れる、手洗い・うがいをし、お着替えをする、脱いだ服をたたんでカバンに入れる、宿題をする、といった日常生活の流れを自然とできるようになることです。そしてその行為は「**自ら主体的に**」行えるようになることが大切です。ややもすると指導員が「ああしろ、こうしろ」と指示してしまうのですが、そこはグッと我慢して見守る必要があります。どうしても適切にできないこどもには「帰ってきたら何をするか覚えてる？」などと問いかけて、こどもに考えさせることが大切です。二つ目の目標の「**言葉を大切に**」とは、こどもは表現力が未熟な部分がありますので、「きもい」「うざい」などといった不適切な言葉を軽い気持ちで単純に使うことがあります。言葉を使えるのは人間だけですので、その大切な言葉を正しく使うように説明しなければなりません。言葉を間違えて使うと相手の心を傷つけるということを十分に理解させることが大切です。三つ目の目標の「**協調性・社会性**」は、集団での遊びのなかで、お互いに笑ったり、怒ったり、泣いたり、喧嘩したりしながら、相手のことを少しずつ理解し、集団における自分というものを見つけていけるように支援することです。

2021年4月1日